

令和6年度「学校教育における情報活用教育に関する連携協定」の成果報告

町の教育大綱に則し、取材や編集における基本的な思考を共有することで、発信能力を高める機会を醸成。継続的な協働を通じて、教育現場とテレビ局の連携が深化し、「たかもり型・人材育成」の推進に寄与している。

実施概要



3年目の取り組みになった、KAB熊本朝日放送と高森町・高森町教育委員会による「学校教育における情報活用教育に関する連携協定」は、児童生徒の1人1台端末とクラウド環境の効果的な活用により、学校の年間カリキュラムに応じた講義や授業支援を継続的・計画的に実施することができ、「たかもり型・人材育成」を推進する1年になった。

「子ども議会」に向けたサポート

高森東学園の9年生には、高森町の教育大綱における集大成とも言える機会であり、10年以上にわたり実施している「子ども議会」に向け、約5ヶ月間にわたる支援を実施した。カリキュラムの中期段階から連携を強化し、取材やリサーチの方針策定、最終的な提案構築に関する指導を行うとともに、発表時の姿勢や発声方法に関する講義を行い、対面とオンラインの双方を活用することで、学習の能動性を促進する工夫を施した。その成果として、生徒たちが町のホームページの分析と改善案をまとめ、「さらなる情報発信へ」と題した提案は、12月の議会で採択されるに至った。



複数年の取り組みが成長の支えに



高森中学校においては、昨年度に引き続き、アナウンサーによる発声指導を行った。1・2年生を対象とした本講座では、人前での発表機会の増加を見据え、発声の基礎を習得することで、個々の発信力向上を図ることを目的とした。複数年の取組により、各教科等と関連付けた適切なタイミングでの講義が実施される環境が整えられつつあり、個々の発信力が着実に向上している。

令和6年度「学校教育における情報活用教育に関する連携協定」の成果報告

「高森ふるさと学」の充実に向け



高森中央小学校では、5年生の「高森ふるさと学」の講習会を行った。各グループの企画は質の高い内容が多く、その熱意は講評者にも感銘を与えるもので、複数年にわたって行われている教育プランに対して、早い段階から連携することで、より深い学びの機会が創出される可能性が示唆された。加えて、後日行われたスタジオ見学の際には、児童が各見学ポイントで活発に質問を行っており、主体的な学習態度が育まれていることが確認された。こうした継続的な取り組みにより、学習者自身の学びの意欲が向上し、町の研究テーマである「自立した学習者の育成」につながっていることが見受けられる。

まとめ

本協定の3年目の総括として、「継続の力」の重要性が挙げられる。学校教育のカリキュラムが変化する中、企業にはこれまで以上に多角的な協力が求められており、より柔軟かつ多様な連携が不可欠だと認識される機会が増えている。今後も、継続的・計画的な協働の機会を創出し、高森町が目指す「たかもり型・人材育成」の推進に寄与できるよう、教育環境のさらなる充実に努めていきたい。

令和6年度の対象校および実施実績

高森東学園3・4年生 | 対象の捉え方

高森東学園5～8年生 | 文化祭発表に向けたサポート

高森東学園9年生 | 高森子ども議会発表フォロー

高森中央小学校5年生 | 高森ふるさと学 講評

高森中央小学校5年生 | KABスタジオ見学

高森中学校1・2年生 | アナウンサー講座

